

適切な水管理と適期の病害虫防除で高品質な米に仕上げましょう！

○「富富富」の生育概況

近年に比べ、草丈はやや長く、茎数は少ない。葉齢は0.2進んでおり、葉色は並みとなっています。

幼穂形成期は、5月11日頃の田植えで7月9日頃と見込まれます。

表1 生育状況（6月30日現在）

	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢	葉色
R7	53.7	430	10.9	4.0
近年値	50.7	524	10.7	4.2

1 穂肥(分施栽培の場合)

幼穂形成期から7日後(幼穂長15mm)を目安に、1回目の穂肥を施用しましょう。

※肥効調節型基肥(基肥一発肥料)栽培の場合原則、追加穂肥は施用しないでください。

表2 分施栽培の穂肥時期と施用量の目安

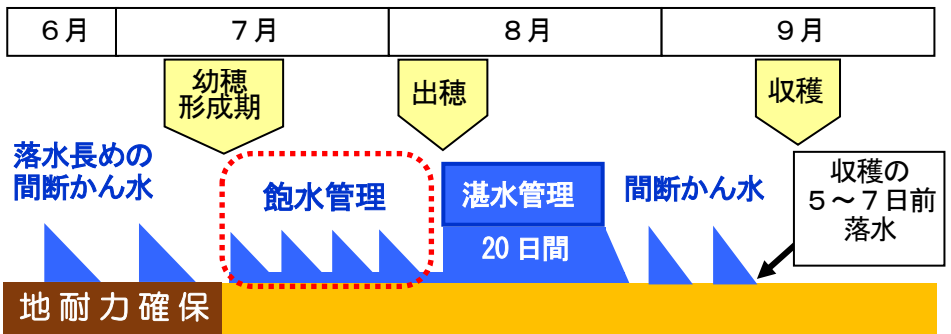
	1回目	2回目
	幼穂形成期の7日後 (7/16頃)	1回目の7日後 (7/23頃)
追肥 3号	5～7 kg/10a	10 kg/10a

2 水管理

○幼穂形成期以降は、根の活力を維持するため、飽水管理を行い、足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持しましょう。

○出穂後20日間は、湛水状態を保ちましょう。

図 水管理のイメージ



3 病害虫防除

病害虫防除は、コシヒカリに準じて実施しましょう。

なお、生育期間を通して、化学合成農薬の成分使用回数(殺虫剤、殺菌剤、除草剤あわせて)が12以内となるか、必ず確認してください。

表3 防除体系

体系	防除時期	薬剤名	成分数	使用量 (10a当たり)	対象病害虫
粉剤	穂揃期	ラブサイドキラップ粉剤DL	2	3～4kg	いもち病、カメムシ類、ウンカ類
	傾穂期	スタークル粉剤DL	1	3kg	カメムシ類、ウンカ類
液剤	穂揃期	ラブサイドK2フロアブル	2	希釈倍数 1000倍 使用液量 150ℓ	いもち病、カメムシ類
	傾穂期	スタークル液剤10	1	希釈倍数 1000倍 使用液量 150ℓ	カメムシ類、ウンカ類
粒剤	出穂10日前 (穂ばらみ期)	フジワンラップ粒剤	2	4kg	いもち病、カメムシ類、ウンカ類

4 漏生稲や異茎株の抜き取り

定期的には場を見回り、異茎株(形態や生育時期等が違う株、右図参照)等を抜き取ってください。



稈の長短(抜き上がり)



出穂が早い稲

農作業の際は、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！